

施設改善による 周産期病対策の取り組み

北見営業所 鎌田 望 有限会社 イワタファーム（興部町）

日頃より弊社商品をご愛顧頂き、心から厚く御礼申し上げます。

今回は、乾乳牛を管理する施設を改善することで、周産期病の発生を激減させることに成功した興部町の(有)イワタファームの取り組みについてご紹介します。

1. (有)イワタファームの、平成23年までの状況

(有)イワタファームでは、平成23年までは、搾乳牛はタイストール牛舎、乾乳牛はフリーストール牛舎で飼養していました。この時間題となっていたのは、乾



写真1. 改造途中のフリーストール乾乳舎



写真2. 発酵床牛床のバイオベッドに改造

乳牛舎のストール寸法が不適切であり、乾乳牛にストレスがかかっていたことです。そのため、移行期疾病が多く問題となっていました。

2. ストレスを緩和する為に施設を改造！

そこで、フリーストールのストールを取り外し、発酵床牛床のフリーバーンに改造するという改善策を行いました。

ここで留意すべき点は、フリーバーンは、フリーストールと比較して収容できる頭数が減ってしまう点です。過密ストレスは牛に悪影響を与えます。

そのため、(有)イワタファームでは育成牛を一部預託することで乾乳牛向けのスペースを確保しました。

この改善で、移行期疾病が激減しました(図1)。

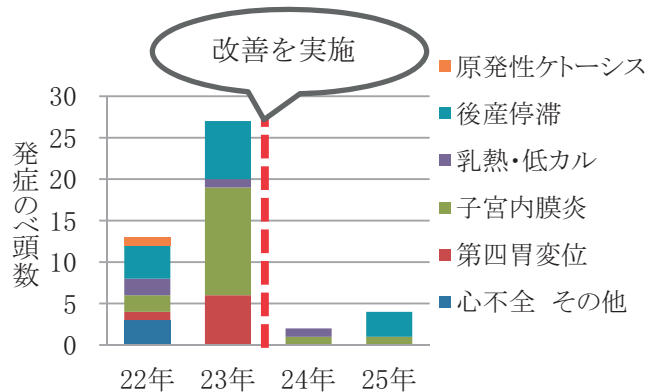


図1. 改善前後の、周産期疾病の発生頭数の推移

これにより24年1月は9,171kgであった個体乳量が3年後には11,283kgまで高まりました。

3. おわりに

(有)イワタファームでは、今回ご紹介した取り組みの他に、積極的に植生改善や暑熱対策にも取り組んでおり、成績向上の一因であることを付け加えてご紹介します。(本誌356号 平成26年7月1日発行に掲載)

今回の事例が、お客様の経営改善に寄与するヒントとなれば幸いです。

最後に、事例紹介を快諾してくださった岩田秀一氏に厚く御礼申し上げます。